



ミリアルリゾートホテルズ内定

秋山真裕子 さん

獨協大学経済学部経営学科卒業予定

ミリアルリゾートホテルズ内定への道

- 1月29日 ジョブフェスティバル(説明会)
- 2月21日 WEBエントリー
- 3月 2日 説明会＋一分間プレゼンテーション＋筆記試験
- 3月16日 グループディスカッション＋ホテル見学ツアー
- 4月 3日 個人面接(学生1:面接官2)
- 4月20日 最終面接(学生1:面接官2)
- 4月25日 内定

誕生日に出会った運命のホテル
一目惚れして、絶対にここで働こうと思った

あなたの顔を見るとうれしくなる

秋山さんの就活スタートは結構早い時期で、3年生の4月には学内セミナーに積極的に参加していた。ホテル業界にしぼり始めたのは、その1カ月後というから、これも早い決定だった。そこに至るには、やはりアルバイトの経験が大きかったという。

「大学2年生から駅の構内にあるカフェでバイトをしています。そこに、あるおばあさんが来て、『薬を飲むので、お水をちょうだい』と言われたことがあるんです」

一度目は注文されてから水を提供した秋山さんだったが、別の日にそのおばあさんがやってきたときには、先手を打って笑顔とともに自分から聞いてみた。

「お水、いかがですか」

すると、そのおばあさんは感激してくれて、「あなたの顔を見るとうれしくなるわ」とお褒めの言葉。

「その言葉がすごくうれしかったんです。それでサービス業に就きたいと。でも、カフェでお客さまと触れ合えるのは一時だけです。もっとトータルに接してみたくて、出した答えがホテルでした」

とにかく行動!

学内の就職ゼミもそうだが、秋山さんは実によくセミナーやイベントに参加している。「とにかく行動!」が就活のテーマだった。

「就職ゼミで先生から『早いうちにフィールドワークをしたほうがいい』とアドバイスされたので、夏休み中にホテルをまわり始めました」

秋山さんが見学したホテルは20軒くらい。一軒一軒を見学しながら、立地、客層、サービス、競合、社員の様子というテーマでメモをつけていった。

ミリアルリゾートホテルズとの出会いは忘れもしない9月2日。なぜ、忘れもしないかというと、それは秋山さんの誕生日だから。やはり、

運命の出会いだったのかもしれない。

「ホテルマンがお子さま一人ひとりを楽しませていて、そのお子さまだけでなく、家族みんなが喜んでいるのを見て、心をつかんでいるな、すごいなあと思ったのを覚えています。喜ばせ方を熟知しているホテルだと感じたんです」

暑い季節、ロビーで冷たいお茶を配っているキャストがいて、秋山さんも一杯いただいた。そのキャストに自分もこのホテルで働きたいのだと伝えると「がんばってくださいね」と応援してくれた。がぜん燃えてきた。超人気ホテルなのは分かっていて。でも、絶対に内定してみせる!

秋山流就活術

秋山さんが就活中に欠かさずがんばっていたのは、日経新聞の記事のスクラップ。マメで努力家な秋山さんならではの情報整理術だが、参考になるので紹介しよう。

「日経は3年生の春から購読し始めました。新聞代は自分で払っていますよ(笑)。最初は難しいと感じたんですが、読み続けるうちに楽しくなってきました。ホテルの記事が出ていたりすると、うれしくなっちゃうんですね」

そのとおり。新聞は読み続ければ面白くなる。

秋山さんは興味のある記事をスクラップするだけでなく、1日に3記事と決めてノートに書き写していった。こうすることで頭にも入るし、面接前にも読み返すことができる。毎日3記事、コツコツと書き写したノートは秋山さんの細かい字がビッシリだ。

悩み抜いたWEBエントリー

ミリアルリゾートホテルズの人たちに、会うたびに惹かれていく自分がいた。

「説明会でも、まずはアイスブレイクのゲームをして緊張をほぐしてくれたり、ディスカッションのグループ分けでも『皆さんはミッキーチームですよ』などと、ちょっとしたところに私たちに対する気遣いを感じました」